

# 竹久夢二

## —レトロ モダン—

2017. 4.8(土) — 6.25(日)

10時—17時 火・水曜日休館 (祝日は開館)

[入館料] 一般：500円

シニア (70才以上)・障がい者：300円

学生 (小学生～高校生)：150円

CAFE・SHOPコーナーは入館無料

### 竹久夢二 年譜

- 明治17年(1才) 9月16日、岡山県邑久郡本庄村に生まれる。本名茂次郎。家業は酒屋。  
明治32年(16才) 4月、神戸中学校入学。12月、家事都合により中退、帰郷。  
明治33年(17才) 2月、一家で福岡へ転居。  
明治34年(18才) 7月、家出して上京。苦学。  
明治35年(19才) 9月、早稲田実業学校に入学。  
明治38年(22才) 「中学世界」にコマ絵「筒井筒」1等入選し、初めて「夢二」と署名する。早稲田実業学校専攻課を中退。  
明治40年(24才) 1月、岸たまきと結婚。4月読売新聞社入社。時事スケッチを掲載する。  
明治42年(26才) 5月、岸たまきと協議離婚。12月最初の著書「夢二画集 春の巻」発刊。以後多くの出版に着手。  
大正元年(29才) 11月、京都府立図書館において、第1回夢二作品展覧会開催。  
大正 3年(31才) 10月、日本橋呉服町に「港屋」開店。笠井彦乃と知り合い、後に結ばれる。  
大正 5年(33才) 4月、初めてセノオ楽譜を装えている。以後、270余のセノオ楽譜の装えをする。  
大正 7年(35才) 4月、京都府立図書館で第2回夢二叙情画展覧会開催。9月「宵待草」が出版され、全国に流布。  
大正 9年(37才) 1月彦乃、お茶の水順天堂医院にて永眠。春、「長崎十二景」完成。黒猫シリーズを制作。  
大正10年(38才) 7月、モデルのお葉と渋谷に所帯を持つ。冬「女十題」完成。  
大正12年(40才) 9月、関東大震災。これにより恩地孝四郎らと共に企画した「どんたく図案社」は実現寸前に潰滅。  
大正14年(41才) 「婦人グラフ」に表紙や口絵をはじめ。大正15年まで続く。当時の夢二人気にあやかって、これらの雑誌は飛ぶように売れた。12月杉沢村にアトリエ付新居「小年山荘」完成。転居。  
昭和 6年(48才) 横山美術研究所建設の準備を進める。外遊を決意する。5月アメリカに向う。  
昭和 7年(49才) 9月、アメリカより渡欧。欧州各地を歩く。  
昭和 8年(50才) 9月、神戸帰港。11月台湾に行くが、体調を悪化させ帰国、病臥。  
昭和 9年(51才) 9月1日、長野県の富士見高原療養所で「ありがとう」を最後の言葉に永眠。雑司ヶ谷墓地に埋葬。

大正ロマンの叙情画家、竹久夢二(1884-1934)は日本画から水彩、

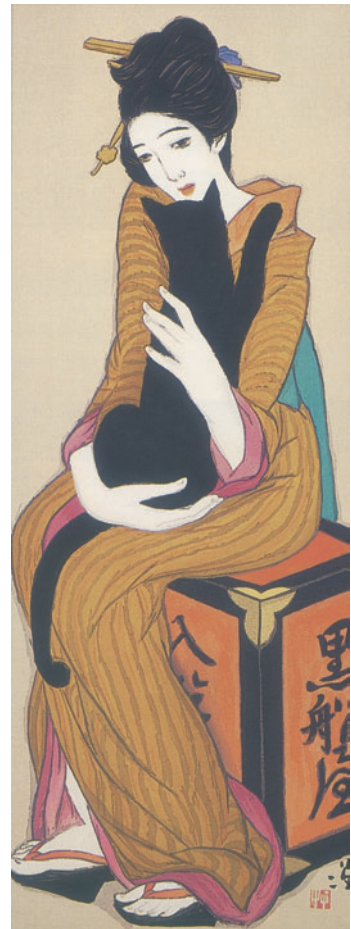
版画、デザイン、さらには文筆と数多くの仕事をしました。

独特な哀愁をおびた肉筆画のほか、装幀や挿絵として発表された木版画は現在高く評価され入手も困難となっております。

港屋オリジナルの木版画は、人気の高い作品を高度な手刷りの技術にて復刻いたしております。

また、かわいらしい図柄の風呂敷や文具など

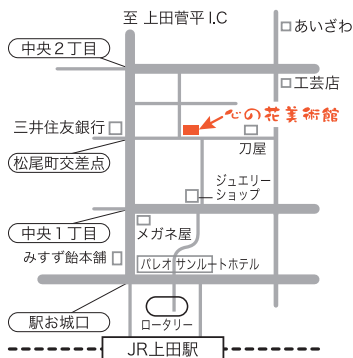
展覧会開催期間のみの販売をいたします。



「黒船屋」



二巾巾風呂敷 (90×90cm)  
「竹久夢二」アートグッズ



●JR上田駅「お城口」より徒歩約5分  
※当館専用駐車場2台あり

## 心の花美術館

art collection museum

心の花美術館▶検索 メール：info@kokohana-artmuseum.com  
〒386-0012 長野県上田市中央2-7-23 tel/fax：0268-22-0022  
協力：株式会社 港屋